



[資料 A] OpenLDAP WiredTiger Backend の使い方

Open Source Solution Technology Corporation
HAMANO Tsukasa <info@osstech.co.jp>
オープンソースカンファレンス 2015 .Enterprise

1 概要

back-wt は WiredTiger データベースを利用した OpenLDAP の新しいバックエンドです。従来の BerkeleyDB を利用した back-bdb と比べて高い書き込み性能が得られます。簡単に評価できるように RHEL7/CentOS7 向けの RPM パッケージを用意しました。※まだリリースされていない OpenLDAP 2.5 をベースにしていますのでプロダクション環境での利用は推奨しません。

2 インストール

YUM レポジトリの追加

```
# curl https://www.osstech.co.jp/~hamano/redhat/install_repo.sh | sh
```

OpenLDAP サーバーのインストール

```
# yum install -y osstech-openldap-wiredtiger-servers
```

OpenLDAP クライアントのインストール

```
# yum install -y osstech-openldap-wiredtiger-clients
```

3 設定

デフォルトで以下のように設定してありますので、最初から back-wt を利用できる状態になっています。

/opt/osstech/etc/openldap/slapd.conf:

```
database wt
suffix "dc=example,dc=com"
rootdn "cn=Manager,dc=example,dc=com"
rootpw secret
directory /opt/osstech/var/lib/ldap
wtconfig cache_size=256M
```

4 サービスの起動

```
# service osstech-ldap start
```

Enjoy!